

# 絵画修復家のアトリエから

加賀優記子 絵画修復家

暦の上では、春になりました。今日は、3月10日、私の誕生日でございます。

私はここ数年テレビを見なかったのですが、最近やっと勇気を出してそれって何？と人に聞いてみたら40代周辺をさすのだそうで、しかし残念ながら私の歳がアラ・フォーの範疇に入る自信がちょっと無い感じです。ちなみに3月10日は松田聖子と同じ誕生日で、しかもヒットラーとも同じらしい。東京大空襲があったのもこの日ですし、少し手放しては喜ばない印象の日にちなみ、とずっと思ってきました。

やはり同じ誕生日の者は、どこか同じような部分があるように私は思うのです。が、ヒットラーも、元は絵描きだったそ

外に売られるパターンの現場に立ち会う回数が増えてきました。今回もかなりの名画の〇〇〇と、(すいません、書くことなだの何の絵かばれてしまう可能性があつて、書けないのです。)こっちは平気かな、とても美しいシスレーの絵。両方合わせて中小企業の経営不振を救済できるほどの額ですが、まだこの絵を買う余力のある人または会社があるんだなというのには、経済情勢に少し希望が持てた次第です。

しかし今回も、ただただ作品の状態報告書を書いて平和裏に終わらせたかったのに、ずいぶん面倒くさい問題に挟まれてしまった。

画商からの指示では何も作品の状態について話すな、ということでしたから、とにかく黙って紫外線調査をやっていた。

紫外線調査では、絵の上に描かれた補彩が判る。最初の絵には何も問題は無かつた。そして……シスレーの絵を紫外線で見ただけ、ありゃーという感じだった。補彩だらけ。しかも全然必要の無い補彩だらけ。困ったことには、絵の持ち主側の責任者の人もそこに来ていた。来てい

た、というより私が紫外線を当てると一

緒に顔をつけて覗き込む。しかも、その人も紫外線での調査で何がどうなっているかわかる人だった。

その人が、「あ、これ、補彩ですよ、ね、ね！何でこんなところにあるんだらう！」と言われて違うとも言えない。「んふーほーですねー。」と歯切れの悪い生返事をする私。でもその人から本社に連絡が行き、過去にこの絵を売ったこの画廊が(または同一の画廊が売却で一役買う、という状況だったわけ。)コ

ンディションの悪い絵を昔説明をしないで売った、ということでもクレームがつけられた。画廊からは、だから後日私に絵の状態は良いと書いて欲しいとかなり強い調子で言ってきた。しかし私もウソは書けない。補彩がバレたのもアタシのせいじゃない。あんな見抜かれちゃう人と一緒に調査するなんていう状況を作った画廊のお膳立ては最悪だ。

画廊に立場があるのも判る。でも私も修復家としてのすごく大事な立場がある。私の書く英文や仏文の調査書はこの有名な名画と一緒にサザビーズやクリスティーズに連れて行かれる。下手をする

と、プロばかりの会場で読み上げられた

りする事だつてある。しかも、それは数十年前後かもしれない。忘れられた過去の不正献金だつて明るみに浮上するのだから、アタシがもしウソの報告書で、「コンディション イズ ベリーグッド」なんて書いてへんな補彩だらけの絵が出てきたらみんなブーイングだ。

と、言うことで、ここ数日は、英語のデリケート表現でレポートを書く事に苦心していた。補彩をもし取り去れば、実は状態は案外グッド、だなんて、むしろかしいわあ、こんなこと書くの。まあまあよろしい、という表現だけでもノットソ

ーバッドとか、単にグッドとか、色々言

いようつてもんがあるのだ。英語は苦手よ。全部で一年しか英語圏で生活してないんだから。しかも半年はおつソロシイなまりのある、アイルランドだったんだから。仏文の方が楽に文書浮かぶけど打つのは苦手。何しろずっとタイプライターでやってきたアナログ人間です。

私もそろそろ流行に取り残されるな、と痛感したのはこの間ムーバをフォーマ

たもんね。そしてまたもや売り場のお姉さんにそうと聞いてしまった。「あー、ワンセグって何なんですか？」

人には、適材適所ってものがある。私はこのあいだ、強く画廊とやり合つて、「アタシにも立場ってもんがある。」と啖

呵を切つたときに内心、あれま、私つて修復家であるって事を案外愛してるんだわ、なんてちよつと自分というものを再認識したりなんてした。たぶん、今迄で最も修復家気質をもちに出した日だったみたい。良心なんてそんなもんじゃなく、考える前に心が、言葉が突つ走つた。あれはすつかり「気質(カタギ)」

つてやつだったなあ。

私は四柱推命の占いを勉強して、それによれば、人は生まれた年月日で、大体その人がどんな職業に向いているか判るといいます。自分は思いっきり芸術方面という結果だったんだけど、どう見ても今の国会には首相、もしくはちゃんとした政治家が、生年月日の結果どおりの適材適所に居るって言う印象はまるで受けないですね。きちんと政治家気質つても

ら。こんなにも印象の悪い人たちが国会が成り立っている国も珍しい。

オバマさんもドイツのメルケルさんもヒラリーさんだって、いかにも大事な政治を任せたいような目つき、気迫、知性が垣間見えるけど。こんな状態では日本が笑いものになつてしまふ。(というより既になつたしまつた気がする。)もつと素晴らしい人材が新しく国会に入つてきてくれないかと思つてしまふ。ノーベル賞を取つた学者さんなどは押しなべて目つきがいいし、品性を感じるものね。

それともそもそも日本の政治界というのは、品性や知性はあんまり必要ないのかも。見ているとそう思えてくるこの頃です。不況だけど、適材適所に居る私達はみんな、激しい濁流に押し流されないように、もしも流されてもいつかもとの処に戻れるように頑張ろうね。

(つづく)

かがゆきこ ●絵画修復家。大学卒業後、絵画の古典技法を学ぶためにパリに留学。ルーブル美術館の絵画修復員を経て、現在は鶴沼で修復工房を主宰。